



会員卓話  
大川 敏彦 会員  
(昭和11年生れ76歳)  
(昭和52年9月入会)

私はロータリーに入る前にJ C（青年会議所）という組織に7年間在籍しておりました。ロータリーに入る前に三前さんに強くお誘いいただき、今は亡くなられましたが、川内さん・中西力三郎さんにも誘われJ Cを卒業したその年の昭和52年9月に入会しました。

その後、多くの先輩にロータリー活動についてご指導いただきました。その間の活動を見てみると、40周年記念事業には新庄公園に栃の木を植えたり、50周年記念事業には大浜公園に浜木綿を植えたりと、形に残る事業をしております。

また、意義ある業績賞として「救急ポイント」事業があり消防・警察に場所の特定に非常に役立つ素晴らしいものとして今でも活用されております。

只、最近を振り返ってみると社会奉仕などの奉仕活動は活発にされておりますが、目立った形に残る事業はあまりされていないように思えます。若い会員が形に残る事業をやっという、と、どんどん提案していただくことを期待しています。

私は、交通安全協会に関わっています。今、交通安全週間なので、皆さん交通安全に心がけていただきますようお願いします。



会員卓話  
畑地 浩会員  
(昭和12年生れ76歳)  
(昭和43年12月入会)

人生のマラソンの折り返し点を通じたとは思っていたのですが、いつの間にか後期高齢者の仲間入りとかで、先の短いと申しますか、後のない世界に入ってきました。ここらあたりで今迄の来し方を振り返り、身の整理をしておくのも一興かと思ひまして今迄の私のロータリー暦ロータリー観なものをお聞き頂きたいと存じます。昭和43年31歳の若さでロータリーへ入れてもらったので、何も解らないまま好奇心も手伝ってあちこちへとMake upに行ったものでした。当時はロータリーの興隆期とでも申しましょうか、有名な人物があちこちで見受けられました。大阪では伊藤忠商事の中興の祖と云われた越後正一社長も眼光鋭く座っていましたし、帝国ホテルの東京クラブに行った時には、藤山一郎さんがタクトを振っていました。

また今も当クラブで時々唄われるロータリー歌謡の“日も風も星も”も丁度出来た頃で渋谷の東急文化会館へ行った時には作曲された歌謡曲界の大御所古関裕而さんが歌唱指導をしていました。尚、作詞家は大阪の料亭「なだ万」の主人で作家の楠本憲吉さんという事を先日ロータリー歌集で知りました。まあ当時は、日本の国全体が青年期成長期で新幹線も走り、東京オリンピックもやり、大阪万博も成功裡に行われ、と日本のイケイケどんどんの古き良き時代で、田中角栄首相の列島改造論へと突き進んで行くのであります。ロータリーへ入るのもステータスのように思われた頃であります。その頃の田辺クラブに関係のある思い出のガバナーと思い出の名セリフについて述べてみたいと存じます。

丁度昭和48年は、当クラブ創立20周年にあたり、時のガバナーは大谷一雄さんとおっしゃり住友化学の社長or元社長さんで上場大企業の社長とはこんな人物なんだなあと仰ぎ見たものでした。公式訪問で例会に来られた時、仰るには「私は公式訪問で各クラブを訪ねスピーチをするのに話の種を3つ程用意して順次話しているのだが、今日の田辺クラブはR Iについてはよく勉強しているようなのでロータリーに関する話は短くして剣道の話をしてします。」とおっしゃり、R I関係の事は、5分ほどしゃべっただけで、後は剣客の話がされました。話の中味は何も覚えていませんが、公式訪問で剣客の話とは、講談を聞くようでしたが、ロータリーってこれでいいんだなあと変な共感を覚えた思い出があります。

その大谷ガバナーが、又来てくれました。昭和48年4月田辺クラブ創立20周年記念例会を伯扇閣の畳の大広間で行った時であります。記念例会で祝詞を頂いたあと、祝賀会では余興として大阪より連れて来られたお師匠さんの三味線に合わせて気持ち良さそうに常盤津を披露してくれました。旦那芸とはこういうのを云うのかと思った次第でした。その祝賀会で開会の辞を述べられた脇村正太郎大先輩の挨拶が語り草となっているわけで、将来と共に、田辺クラブとして語り継いでいって頂きたいと思う言葉です。そこまで言うと、あゝまたあの話かと思ひ出される方も沢山おられるだろうと存じますが、あえて云わして貰うと、このように田辺クラブを紹介されています。

「田辺は平素より始末する、そしてここぞという時は更にもう一段始末する。これが田辺という町の、そして田辺クラブの性格である。」と、ガバナーを迎えての質素な食事、その上十分にお礼もしないまま自弁に近い形でお出で頂いた事などを暗に感謝しながら、しかしお陰様であちこちで始末しながら蓄めた資金で三六運動場周辺へ立派なツツジの森を作る奉仕活動が出来ました、と後刻発刊した20年史の中で編集者がガバナーへのお礼も込めて綴っています。

それ以来田辺クラブは何かというと、「ここぞという時は更に始末する」が合言葉になり、田辺クラブの伝統（伝家の宝刀）となってきたわけです。田辺クラブの始末、質素振りはメーキャップフィや年会費を他クラブと比較しても低額の部類に入るのを見ても理解できるのではないのでしょうか。しかし、日頃は始末するのですが、しなくてはならぬここぞという時は思い切った奉仕活動、基金の拠出もしているわけで、これは過去の田辺クラブの歴史を見てもらえば、充分理解出来るわけであります。

従ってこの事には他クラブも田辺クラブに一目置いている所であります。ここぞという時に始末するのか、思い切った財政出動のともなった奉仕活動をするのか、これの見きわめ、メリハリをつけて行うロータリー活動が今後共重要なのではないのでしょうか。

昔は「奉仕は金を使うだけではなく、頭で、アイデアで奉仕せよ」と良く聞かされたものでした。奉仕活動を標榜する団体も沢山ありますが、つぎ込んだ金額の高低や華美等で競い合うのではなく、地域で、世界で、どれだけ喜ばれているか、為になっているかで競い合う事が肝要かと思ひます。

この「ここぞと云う時には、もう一段始末する」という箴言（格言、教訓）は、亡くなった川内潔さんが挨拶で2、3度使われていたのを聞いた事があるのですが、ハコヘさんがおられれば、この話をされたんだろうなあと思ひ出し乍らお話しした次第です。

ロータリーに関して私の好きな言葉というか、ロータリーはロータリーをうまく宣伝するなあと感じる点を話してみたいと思ひます。

それは何かと申しますと、ロータリーはいろんな場面、チャンスを提供するからそこで自分を研鑽してくれ、磨いてくれという言葉であります。

どうということかと申しますと、例えばロータリーにはこの卓話の場であったり、色んな部会・委員会の場があります。卓話の場合、大勢のオーディエンスを用意するから弁説の練習の場に使えるというわけでしょうか？このオーディエンスなるもの、今の会員さんは皆様おとなしいが、私の入会した当時は一癖も二癖もある人物ぞろい、もちろん先輩ばかり、自分本位で気に入らんかったら聞く耳持たん人が多かったものです。話が面白くなかったら例会中でも大声で隣人と話し合う。しかし興味をもったらシーンとなって聞いているし、絶妙な間合いをもってヤジを飛ばす人達もいました。最近では上手にヤジを入れる人がいなくなったので、例会も味気なくなってきたように思ひます。

従って黙って聞いてもらう為に、黙って聞かす為に何度も推敲をし、反復練習をしたものでした。私がここで学んだ演説の上手下手は、弁説の巧みさや美辞麗句ではなく、話の中味次第、話の内容が良ければ人は静かに聞いてくれるものだ、ということでした。

又、ロータリーには色んな委員会・部会があります。委員、部員は皆んな一国一城の主ばかりで、多士済々であります。成果を上げる為にどんな人の動かし方をするか、どうしたら働いてくれるか、ロータリーはそういう場を提供するから研鑽しなさいというわけです。

皆さん、人を動かす要諦は何でしょうか？ 飽とムチはロータリーでは通用しません。私がロータリーで学んだ人の動かし方の要諦は、まず自分が動く事、自分が働く事でした。田辺クラブは皆さん一国一城の主ですが、まじめな方ばかりです。何か事あると、老いも若きも応援しよう、サポートしようと思っている善意な人ばかりです。殆どの人が性善説のカタマリです。

ある時、転勤族の方からこんな話を聞きました。「田辺クラブは不思議な人達の集まりですね。お互を呼び合うのに、姓ではなく、名前で呼び合っている。皆さん仲が良くていいですね。」私もその話を聞いて初めて、そんな見方があるんだと気付きました。それから色々とお気をつけて聞いているのですが、経験から申しますと、東京の高校の同級生は姓の下に“さん”をつけて呼び合っています。私は東京では“ハタチさん”です。大学の同級生は姓だけで呼び合っています。“オーイ、ハタチ”です。田辺の学校の同級生は親しい間柄はほとんど名前又はニックネームで呼び合っています。アメリカでも親しみをもった友人同士は、1st nameで呼び合います。日本の商社の駐在員もわざわざジャックやトムやとニックネームをアメリカ式につけて呼び合っていました。田辺は、アメリカに近い考え方の人が多いのでしょうか。田辺ロータリーは、これからも益々親しみのこもったお付き合いを続けていっていただきたいものです。

そろそろ終りに近づいてきました。“後期高齢者の後は何よ？”という問いに、末期高齢者という言葉を読んだ事がありますが、私も今しばらくは、後期高齢者でいたいので、よろしくお付き合いの程お願い申し上げます。

## 創立50周年の思い出



創立50周年記念事業  
はまゆうの句碑建立  
(2003年)

故小坂光生会員・故岩本典久会員・故阪井幹生会員・故川内潔会員・故中西力三郎名誉会員も参加されました。



田辺ロータリークラブ創立50周年記念事業 はまゆう群落再生プロジェクト  
平成15年3月22日(土) 於: 扇ヶ浜

創立50周年記念事業  
はまゆう群落再生プロジェクト  
(2003年)

はまゆうの苗を植栽しました。故申博夫会員・故瀬戸勝次会員・故川内潔会員も植えられました。



市民参加型ミュージカル  
「キャドック王国とリンボのオオカミ」 2003年3月



故小幡淳美会員も王様役で出演されました。